

2008 年度

科目名 倫理学概論 B	対象学科・学年 文学部文財 2 回生 人間人社 2 回生	担当者 林 進
授業テーマ 近代ヨーロッパ倫理思想概観		
授業の概要と目標 ヨーロッパ近・現代を中心に倫理思想を概観する。とくにカントに代表される近代の道德論と、その近代の道德価値に対して批判の刃を向けたニーチェの反道德論を両輪にして、実存主義あるいは功利主義やプラグマティズムの道德思想を説明し、さらには啓蒙の弁証法や構造主義などの思想にも触れながら、ポストモダンの問題を考察する。		
評価方法 レポート提出。出席重視		
テキスト プリント配布	著者	出版社
参考書 授業の中で指示	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. 「私」という存在をめぐって——デカルトとニーチェとフロイト 2. 実存主義（1）——キルケゴールの「単独者」 3. ニーチェの道德批判（1）——奴隷道德 4. ニーチェの道德批判（2）——ルサンチマンと力への意志 5. ニーチェの道德批判（3）——超人道德 6. 社会契約説——ホッブズとロックとルソー 7. 功利主義——ベンサムとミル 8. プラグマティズム——パースとジェイムズとデューイ 9. 実存主義（2）——ハイデガーとヤスパース 10. 実存主義（3）——サルトルとメルロポンティ 11. フランクフルト学派（1）啓蒙の弁証法——アドルノとホルクハイマー 12. 構造主義——レヴィーストロースとフーコー 13. ポスト構造主義——デリダとドゥルーズ 14. フランクフルト学派（2）コミュニケーション行為理論——ハーバーマス 15. レポート提出		